

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101873		
法人名	社会福祉法人はちす福祉会		
事業所名	グループホームハーモニー		
所在地	熊本市東区秋津町秋田171-2		
自己評価作成日	令和2年12月15日	評価結果市町村受理日	令和3年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年3月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑広がる田園風景に囲まれた、自然豊かな場所に建てられています。  
 特養・通所・居宅・ヘルパー・ケアハウスが併設されており、事業所間の交流もあり、地域福祉の拠点として、法人は大きな役割を担っています。  
 医療面は訪問看護ステーションとの連携により、365日24時間体制で看護師による緊急時等の対応が可能です。  
 施設行事へご家族も一緒に参加して頂き、ご家族との交流を図り、月に1回地域のスーパーへお買物へ行く機会を作り、社会との繋がりが維持出来るように努めています。毎月1回、日々のご様子をお便りにして発行し中々面会に来る事が出来ないご家族へ情報提供しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地の一角に立つホームは、隣接する法人施設と食事の提供や有事の際の避難所として連携を図り、入居者に安心で安全な日常生活を提供している。昨今の自然災害は予想をはるかに超えるものであり、ホームの立地からも河川の氾濫などが想定されることから、運営推進会議での地域代表者との協議が行われている。また、管理者自らが消防署などに足を運び、対応策や訓練等への助言を受け、あらゆる災害に備えている。コロナ感染症への対応から馴染みとなった地域小売店への買い物支援や、ボランティアとの交流などが現在は中止となっており、コロナ終息後は入居者の笑顔に繋がる取組が再開されることが期待される。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム玄関、スタッフルーム、事務所内に理念を掲示し、職員全員での把握・共有に努めている。	理念と“3つのお約束”を事業所内に掲示して職員の意識強化を図っている。地域社会との繋がりや、入居者が安心して生活するための項目を掲げており、入居者の言動を否定せず、自由に生活してもらうこととしている。理念は新たに入職する職員や運営推進会議のメンバーにも伝えており、ホームの基本姿勢を発信している。	本年度はコロナ感染症により、運営推進会議も中止せざるを得ない状況であったが、新年度初回の会議で、参加者に向け改めて理念を啓発することも必要と思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度までは、ボランティアを定期的に受け入れていたが、コロナの影響により、今年度は中止している。地域行事も自治会から紹介していただいていたが、今年度は中止している。	例年であれば自治会代表者からの地域情報が外出のきっかけや交流の機会となっていたが、今年度は殆どの行事が中止となっている。管理者はこれまでに地域の民生委員の会合に参加したり、入居者の受診を一手に担い、地域の医療機関と連携を図り、ホーム運営に反映させている。	これまで続いていた地元スーパーでの買い物支援や、各ボランティアの訪問も中止されており、コロナ終息後の再開が待たれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加者も増えて事業所・認知症等について理解を深めていただいている。情報交換は出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で今年度は集まったの会議は1回で、中止時は委員の方へ資料を配布し、意見書をいただいている。皆様からいただいたご意見は、施設運営に大いに役立っている。	運営推進会議の中止により、参加メンバーへの書面審議としているが、昨年7月には法人会議室を会場として通常開催が実現している。入居者の現状や行事・事故について報告し、意見交換ではコロナ感染症への質問や、県南地方で起きた豪雨災害を受けて、二河川に挟まれた当地域の現状や避難方法などについて、活発な意見が交わされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ地域包括視線センター職員が参加され、様々な助言をいただいている。施設運営・入居者の処遇等に疑問点があればその都度市役所へ足を運んだり、電話で相談している。	今年度は行政との感染症対策へのやり取りが主であったが、何かあれば直接市役所(本庁・区役所)に出向いている。誤薬などの事故報告は行政だけでなく運営推進会議の中でも報告し、発生状況や対応策について説明をしている。	当初より市の介護相談員の受け入れはしていないが、コロナ終息後には一度検討される事を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室は施錠せず入居者が自由に出入り出来るようにしている。玄関も日中は施錠していない。散歩を希望された際は、その都度対応している。	日中の玄関はオープンであり、入居者の散歩にはその都度応じている。3か月ごとの法人研修で身体拘束について認識を共有し、担当職員が資料作成に関わることで責任と自信に繋がっている。管理者は夜勤者が全ての対応を一人で判断することになるとして、入居者の状態変化への対応や連日勤務など、ハードワークにならなうよう職員の勤務体制に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送り、介護等を通じて職員間で確認し合い、虐待への注意・防止に努め、お一人お一人の声に耳を傾け、寄り添った介護を目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修へ数名参加したが、全職員が理解し、対応、支援が出来るように、今後取り組まなければならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面を提示しながら、口頭で十分に説明を行い、不安点・疑問点がないか確認し、ご納得された上で契約を行っている。改定時は、口頭・文書でご説明しご理解いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、面会時やお電話にてご家族よりご意見、ご要望を伺っている。毎月1回、生活状況報告書を作成し、全家族へ配布している。	運営推進会議には家族も参加しており、家族の立場として出された意見には全職員で共有し、対応策を検討している。入居者の様子はハーモニー便りで発信し、安心してもらうように努めている。コロナ禍以前には、ホーム独自のアンケートを実施しており、玄関外にボックスを置いて、他者にわからないような工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見を取りまとめ、法人の経営会議に管理者から提案している。	職員意見はいつでも聞き取り、必要によって管理者が法人に声をあげている。管理者は職員へ記録の簡素化や夜勤明けにはスムーズに帰宅するよう指導し、希望休への配慮や有休についてなかなか取れない場合には、病欠欠勤を有休に当てる等で対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。 休日の希望を聞き、毎月のシフトに反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から研修参加の希望がある際は、シフトを考慮している。入職時は各マニュアルを用いて、新人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム管理者と密に情報交換を行い、早急な入居希望者がおられる際は、他事業所と協力しながら入居希望者へ空き情報を提供している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅訪問やお電話にて、本人・家族の思いを聞き取っている。事前に見学して頂き安心して入居していただけるよう心掛けている。アセスメントにて意向等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	契約時にはじっくりと時間をかけ、不安や要望を伺い施設での生活について一緒に考えている。入居後はご様子についてこまめに連絡し少しずつ信頼関係が築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・ご家族と面談し、関係事業所や以前の担当ケアマネに助言をいただきながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いなど本人が少しでも出来る事は職員と一緒にいき、共に生活する場となるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昨年まではご家族へイベントへの参加を呼び掛けていた。少しでも状態に変化があった際は、その都度電話にて報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々に訪問していただけるようお願いしている。近所のスーパーへ度々出かける事で顔なじみとなり、店員さんから声かけしていただく等、本人にとって楽しみの一つとなっている。	家族との面会は感染症対策を取って窓越し面会で対応しており、評価当日も家族の姿に喜ばれる入居者の様子が確認された。行きつけの美容室などへは同じく対策を講じ、現地で家族と待ち合わせる等の方法を取っている。恒例行事となっていたスーパーでの買い物支援は中止されており、顔なじみとなったスタッフとの再会が待たれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の活動や、座席については相性を考慮している。常時職員から話題提供を行い、入居者同士の関係構築が図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話し、その後のご様子、家族の状況把握を行っている。契約終了した家族へクリスマス会参加を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味嗜好等を本人・家族から伺い、思いを汲めるように心がけている。家族とは面会時、お電話で情報収集し一緒に考えていただくようにしている。	入居者の中には〇〇に行きたいなどはっきりと自身の言葉で表現される方もおられるが、中々言われない方や表現困難な方には普段の関わりからくみ取ったり、家族からの情報をもとに本人・本位となるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、本人・家族・関係事業所から生活歴等の確認を行っている。入居後は毎日の生活の中で知りえた情報を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	就寝・排泄等のチェック表を用い、サイクル把握に努めている。職員間では口頭、連絡帳で申し送りを行い、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月ごとにモニタリングを行い、サービスの見直しを行っている。本人・家族の意向を伺い、計画書に反映させている。	開所から4年を経過し入居者の体調変化が見られる中、浴室へのリフトの導入やシャワーヘッドの交換など、安全性に配慮した支援を行っている。また、独自の家族アンケートなどにより、ありのままの気持ちを書いてもらい、運営に反映させている。入居者の中には有料施設から移行された方も多く、ケアマネジャーは入居前の情報や職員の気づきを収集し、ホームでの楽しみ事を見つけ、自由に生活してもらいながら、転倒防止にセンサーマットの利用などを初回プランに盛り込んでいる。	プランへの本人・家族の意向の明記や、本人または家族の署名及び同意印が無いものが見受けられ、対応が必要と思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、訴え等を個別に記録し、排泄・食事・体重表等の記録を活用し、職員間で情報共有し計画書に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状、多機能化への取り組みが十分に出来ているとは言えないので、今後取り組まなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、委員の方々から情報をいただいているが、入居の方が活用できる取組みが、今後必要である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選定は家族の意向に基づき選定している。訪問診療は往診料が発生する為、家族の負担軽減の為、管理者が通院支援を行っている。	内科や専門医を含め、本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、訪問診療や通院支援は管理者が行っており、家族への必要な報告が行われている。また、食欲や歩行、表情など気になることがあれば、早めの受診を支援することを家族へ伝えている。歯科については現在2か所の協力医により必要に応じて支援され、職員への口腔ケア指導も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と365日24時間体制で連携している。週に2日～3日は訪看から来設され健康管理に努めている。薬は調剤薬局・訪看と連携し管理している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関へ口頭とサマリーにて詳しく報告している。入院後は週に1回は訪問し病院から情報を収集している。退院時もお迎えに行き、退院後の生活についてアドバイスをいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では行っていないが、今後研修等を通じて職員のレベル向上に努め、ご家族・医療機関とも相談しながら、終末期の対応が出来るように取り組んで行きたい。	現在は、常時継続した医療が必要でなく、通院で可能な状態までホームで支援している。状態が悪化した場合は、その都度主治医と話し合いの機会を持っている。また、訪問看護事業所と連携しながらギリギリまで支えており、これまで看取りの支援は行われていない。今後は、家族や医療機関との連携を図りながら、職員のレベルアップなど終末期支援への体制に取り組みたい意向である。	今後も普段の関わりを大切にしながら、入居者への支援に努めていける事を期待したい。また、看取り支援への取組の意向もあり、職員のメンタル面に配慮した研修会の開催など、今後の取組が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故フローチャートをいつでも閲覧できる場所に備え付けている。特に夜勤を行う職員は、個別で急変時対応の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間を想定した避難・通報訓練を実施している。水害訓練も毎年実施している。訓練時は家族・民生委員にも見学していただいていたが、今年度は感染防止の為、見学は中止している。	法人内で協力、連携を図りながら、昼・夜を想定した訓練を実施している。ホームは立地上水害が心配されることから、火災に加え、水害についても意識をもって取り組んでいる。昨年9月の大型台風接近時は、消防署などとも連絡を取りながら有事に備えている。また、管理者は日頃から防災管理センターにも電話や直接足を運び、相談や質問を行いアドバイスを受けている。食備蓄については、3日分を法人で管理している。	感染症終息後は、運営推進会議や家族の参加協力を得た訓練の実施が期待される。また、火災に加え、これまで発生した自然災害を風化させる事のないような取組にも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日中は居室・玄関は開錠している。写真を使用する際は家族から同意書をいただいている。職員の言動がふさわしくない際は、管理者が個別に注意している。	呼称は基本的に苗字にさん付けとしているが、反応や状況によっては家族の承諾を得、お父さん、お母さんで対応している。管理者は職員の言葉使いや支援方法について気になる点があれば、その都度伝えている。また、守秘義務の徹底については入職時をはじめ、会議などで周知を図っている。身だしなみやおしゃれについては、家族の協力を得ながら取り組んでおり、化粧をされる方は不足などがあれば、家族へ要望を伝えておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を確認している。自己決定が難しい方は、表情等から汲み取ったり、ご家族へ連絡し、確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思・希望を大切にして、その日、その時の状態に合わせた支援を行うように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は季節ごとに家族に持ってきていただいている。毎日の服装については自分で選ぶことが出来ない方は、職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が献立を立て、栄養バランスを考慮した食事を提供している。嚥下咀嚼に応じて硬さ等個々人に配慮している。	法人の管理栄養士による献立や調理は隣接する母体施設厨房で行われ、食形態も嚥下力に応じて提供されている。入居者が普段の調理に関わる機会を持たれていないが、毎月おやつ作り(バナナクレープ・お好み焼き・おはぎなど)を企画し、食への楽しみを持ってもらえるようにしている。	食事は入居者にとって楽しみの一つであり、引き続き職員の工夫やアイディアを活かしたおやつ作りの継続に期待したい。また、栄養のバランスに加え彩りへの配慮も食欲に繋がり、支援する職員も入居者の代弁者として、発信する機会を持たれることが必要と思われる。定期的に栄養士がホームを訪れ、入居者や職員と会話をしながら、食の進み具合を確認することも一案と思われる。取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量を記録している。随時水分提供・声掛けを行い、家族の要望がある方にはおやつを提供している。毎月体重測定を行い、変動時は主治医・家族へ相談・連絡している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施し、必要に応じて職員と一緒にしている。口内に異常がある際は、歯科医へ依頼し、治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い各人のパターン把握に努め、オムツ使用者も出来る限りトイレでの排泄を行い、パット等の使用を減らすようにしている。本人の尊厳に留意し出来る所は自分で行っていただいている。	個々の排泄パターンを共有し、可能な限りトイレでの排泄支援に努めている。日中はリハビリパンツに尿取りを併用して過ごされる方が殆どであるが、夜間はワイドパンツやオムツを使用される方もおられる。また、夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、毎日の洗浄と乾燥、消毒を行い清潔に管理している。	トイレ内に置かれた洗浄用ボトルについては、プライバシーの点からも別の場所での保管が望ましいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指導を受け、起床時の水分提供を実施している。毎日体操を取り入れて、活動量を増やすように支援している。主治医と連携し、服薬調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人につき週2回入浴していただいている。お湯はお一人ずつ入れ替えている。拒否された際は時間を変えたり、翌日に入浴していただいている。	入浴は毎回湯を入れ替え、一番風呂気分を味わってもらいながら、週2回の支援に努めている。同性介助への希望があれば対応し、拒否がある場合も無理強いせず、時間をずらしたり翌日に変更している。身体状況に応じてリフト浴も準備され、シャワーヘッドの交換は心地よさに繋がっている。	採光の場所でもある窓の棚に置かれたシャンプーなどの物品については、別の場所に置くことで更に、気持ちの良い入浴環境に繋がると思われる。取組に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	離床を促しているが、その日の体調・希望に応じて、昼間でも休息出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットに処方箋をファイルし、都度確認している。服薬チェック表を用い、誤薬防止に努めている。主治医・薬剤師と連携し、症状に変化があればその都度主治医へ連絡し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き・洗濯物たたみを手伝っていただいている。散歩や日光浴など入居者が自分のペースでゆったり過ごしていただけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日には近隣の公園等へドライブに出かけたり、近所のスーパーへお買い物に行っている。散歩を希望された際は、可能な限り屋外散歩を実施している。	コロナ禍以前は、衣料品店(ユニクロ)や顔なじみの関係となったスーパーの利用など地域資源を活用した買い物支援が行われていた。現在は、ソーシャルディスタンスを保ってふるさと訪問や、公園や神社(浮島)などへのドライブに出かけている。また、ベランダで外気に触れる機会を持っている。日中の外出支援が殆どであるが、夏には庭先で花火の時間も持たれている。	以前のような取組は難しいが、状況を見ながらホーム周辺の散歩など身近な外出に取り組まれることを期待したい。また、家族からも「早く外食に連れていきたい」など要望が上がっており、コロナの早い終息が待たれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買物の機会を設けて支払いが出来る方は自分で支払っていただき、お金に対する意識が持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人から要望があった場合、家族へ電話していただいている。携帯電話をお持ちの方は自分で家族へかけられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に配慮し各ユニットへ温湿度計を置いて常時確認している。抗菌・消臭効果がある次亜水を使用し、24時間換気システムで清潔な空調になっている。	玄関を中心に左右に配置されたユニットは、さくら、つばきと命名され、ボランティアとの訪問交流などイベントの開催は、さくらユニットを会場としている。感染症への対応として、これまで以上に換気や次亜水を使った掃除などに努めている。リビング食堂に置かれたテーブルは、身体状況や相性なども考慮して席が配置されている。また、ソファに座ったり、ベランダも日光浴や夜間は月見の場所とし活用し、寛いだ時間が持てるよに支援している。	ホーム周辺は草花が開花しており、ホーム内の要所に飾ることで、入居者が身近に季節を感じる事が出来ると思われる。異食にも配慮しながら取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろがれたり、気の合った方同士で談笑されている。気候が良い日にはベランダに椅子を置き、くつろいで過ごしていただけるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は馴染みの家具や家族写真を持ち込んでいただいている。仏具を持参されている方もおられ、本人にとって居心地の良い空間になるように支援している。	入居時にわかりやすいよう大文字で記されたパンフレットを用い、必須の持ち込みの品や馴染みの品について説明を行っている。テレビやチェア、安定感のある家具をはじめ、心の拠り所となる仏壇の持ち込みをされた方もおられる。コロナ禍にあり家族の直接的な面会を控え、居室での窓越し面会を実施しており、訪問当日も久しぶりの面会に喜ばれる本人や家族、サポートする職員の光景が見られた。	コロナの終息が見えず家族も面会ができない事から、ホーム内での様子など気になる点と思われる。引き続き居室の状態や不足の品など、小まめな連絡により家族の安心に繋げていただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からホール・居室へと全てバリアフリーになっている。ホール・トイレには照す炉を設置して安全面に配慮している。		